



S3バケットを管理する StorageGRID software

NetApp
December 03, 2025

目次

S3バケットを管理する	1
S3バケットを作成する	1
ウィザードにアクセスする	1
詳細を入力してください	1
設定の管理	2
バケットの詳細を表示	4
バケットにILMポリシータグを適用する	6
バケットポリシーを管理する	7
バケットの一貫性を管理する	8
バケットの一貫性ガイドライン	8
バケットの一貫性を変更する	8
バケット設定を変更すると何が起こるか	9
最終アクセス時間の更新を有効または無効にする	10
バケットのオブジェクトのバージョン管理を変更する	11
S3 オブジェクトロックを使用してオブジェクトを保持する	13
S3 オブジェクトロックとは何ですか?	13
S3 オブジェクトロックタスク	14
S3 オブジェクトロックが有効になっているバケットの要件	15
S3 オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトの要件	16
S3 オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトのライフサイクル	16
従来のコンプライアンス バケットを引き続き管理できますか?	16
S3 オブジェクトロックのデフォルト保持を更新	17
クロスオリジンリソース共有 (CORS) を構成する	18
バケットのCORSを有効にする	18
CORS設定を変更する	19
CORS設定を無効にする	19
バケット内のオブジェクトを削除する	20
S3バケットを削除する	22
S3コンソールを使用する	23

S3バケットを管理する

S3バケットを作成する

テナント マネージャーを使用して、オブジェクト データ用の S3 バケットを作成できます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、["サポートされているウェブブラウザ"](#)。
- ルートアクセスまたはすべてのバケットの管理権限を持つユーザーグループに属している["アクセス権"](#)。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。



バケットまたはオブジェクトのS3オブジェクトロックプロパティを設定または変更する権限は、["バケットポリシーまたはグループポリシー"](#)。

- バケットに対して S3 オブジェクト ロックを有効にする予定の場合は、グリッド管理者がStorageGRIDシステムのグローバル S3 オブジェクト ロック設定を有効にし、S3 オブジェクト ロック バケットとオブジェクトの要件を確認しておきます。
- 各テナントに 5,000 個のバケットがある場合、グリッド内の各ストレージ ノードには最低 64 GB の RAM があります。



各グリッドには最大 100,000 個のバケットを含めることができます。

ウィザードにアクセスする

手順

1. ダッシュボードから[*バケットの表示*](#)を選択するか、ストレージ **(S3)** > [*バケット*](#)を選択します。
2. [*バケットを作成*](#)を選択します。

詳細を入力してください

手順

1. バケットの詳細を入力します。

フィールド	説明
バケット名	<p>次のルールに準拠するバケットの名前:</p> <ul style="list-style-type: none"> 各StorageGRIDシステム全体で一意である必要があります (テナント アカウント内で一意だけでなく)。 DNS に準拠している必要があります。 3 文字以上 63 文字以下でなければなりません。 各ラベルは小文字または数字で始まり、終わる必要があります、小文字、数字、ハイフンのみを使用できます。 仮想ホスト形式のリクエストにはピリオドを含めることはできません。ピリオドを使用すると、サーバーのワイルドカード証明書の検証で問題が発生します。 <p>詳細については、"バケット命名ルールに関する Amazon Web Services (AWS) ドキュメント"。</p> <p>注意: バケットを作成した後は、バケット名を変更することはできません。</p>
リージョン	<p>バケットのリージョン。</p> <p>利用可能なリージョンはStorageGRID管理者が管理します。バケットのリージョンは、オブジェクトに適用されるデータ保護ポリシーに影響を与える可能性があります。デフォルトでは、すべてのバケットは `us-east-1` 地域。</p> <p>注意: バケットを作成した後はリージョンを変更できません。</p>

2. *続行*を選択します。

設定の管理

手順

1. 必要に応じて、バケットのオブジェクトのバージョン管理を有効にします。

このバケット内の各オブジェクトのすべてのバージョンを保存する場合は、オブジェクトのバージョン管理を有効にします。必要に応じて、オブジェクトの以前のバージョンを取得できます。バケットをクロスグリッドレプリケーションに使用する場合は、オブジェクトのバージョン管理を有効にする必要があります。

2. グローバル S3 オブジェクトロック設定が有効になっている場合は、オプションでバケットの S3 オブジェクトロックを有効にして、Write Once Read Many (WORM) モデルを使用してオブジェクトを保存します。

特定の規制要件を満たすためなど、オブジェクトを一定期間保持する必要がある場合にのみ、バケットに対して S3 オブジェクトロックを有効にします。S3 オブジェクトロックは、一定期間または無期限にオブジェクトが削除または上書きされるのを防ぐのに役立つ永続的な設定です。



バケットに対して S3 オブジェクトロック設定を有効にすると、無効にすることはできません。適切な権限を持つユーザーは誰でも、変更できないオブジェクトをこのバケットに追加できます。これらのオブジェクトまたはバケット自体を削除できない可能性があります。

バケットに対して S3 オブジェクトロックを有効にすると、バケットのバージョン管理が自動的に有効になります。

3. *S3 オブジェクトロックを有効にする*を選択した場合は、オプションでこのバケットの*デフォルトの保持期間*を有効にします。



グリッド管理者は、次の権限を与える必要があります。"[S3 オブジェクトロックの特定の機能を使用する](#)"。

デフォルトの保持期間 が有効になっている場合、バケットに追加された新しいオブジェクトは、削除または上書きされないように自動的に保護されます。*デフォルトの保持期間*設定は、独自の保持期間を持つオブジェクトには適用されません。

- a. *デフォルトの保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルトの保持モード*を指定します。

デフォルトの保持モード	説明
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーは `s3:BypassGovernanceRetention` 許可は `x-amz-bypass-governance-retention: true` 保持設定をバイパスするためのリクエスト ヘッダー。 • これらのユーザーは、オブジェクト バージョンを、その保持期限に達する前に削除できます。 • これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> • オブジェクトは、保持期限に達するまで削除できません。 • オブジェクトの保持期限を増やすことはできますが、減らすことはできません。 • オブジェクトの保持期限は、その日付に達するまで削除できません。 <p>注意: グリッド管理者がコンプライアンス モードの使用を許可する必要があります。</p>

- b. *デフォルトの保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルトの保持期間*を指定します。

デフォルトの保持期間は、このバケットに追加された新しいオブジェクトが取り込まれた時点から保持される期間を示します。グリッド管理者によって設定されたテナントの最大保持期間以下の値を指定します。

グリッド管理者がテナントを作成するときに、1 日から 100 年までの値に設定できる最大保持期間が設定されます。_デフォルト_の保持期間を設定する場合、最大保持期間に設定された値を超えることはできません。必要に応じて、グリッド管理者に最大保存期間の増減を依頼してください。

- オプションで、「容量制限を有効にする」を選択します。

容量制限は、このバケットのオブジェクトに使用できる最大容量です。この値は物理的な量 (ディスク上のサイズ) ではなく、論理的な量 (オブジェクトのサイズ) を表します。

制限が設定されていない場合、このバケットの容量は無制限になります。参照["容量制限の使用"](#)詳細についてはこちらをご覧ください。

- *バケットを作成*を選択します。

バケットが作成され、「バケット」ページのテーブルに追加されます。

- オプションで*バケットの詳細ページに移動*を選択して["バケットの詳細を表示"](#)追加の構成を実行します。

バケットの詳細を表示

テナント アカウントでバケットを表示できます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、["サポートされているウェブブラウザ"](#)。
- あなたは、["ルートアクセス、すべてのバケットの管理、またはすべてのバケットの表示権限"](#)。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。

手順

- ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (S3) > *バケット*を選択します。

バケット ページが表示されます。

- 各バケットの概要表を確認します。

必要に応じて、任意の列で情報を並べ替えたり、リスト内を前後に移動したりできます。



表示されるオブジェクト数、使用領域、使用量の値は推定値です。これらの見積りは、取り込みのタイミング、ネットワーク接続、およびノードの状態によって影響を受けます。バケットでバージョン管理が有効になっている場合、削除されたオブジェクトのバージョンもオブジェクト数に含まれます。

Name

バケットの一意的な名前。変更できません。

有効な機能

バケットに対して有効になっている機能のリスト。

S3 オブジェクトロック

バケットに対して S3 オブジェクト ロックが有効になっているかどうか。

この列は、グリッドで S3 オブジェクト ロックが有効になっている場合にのみ表示されます。この列には、従来の準拠バケットの情報も表示されます。

リージョン

バケットのリージョン。変更できません。この列はデフォルトでは非表示になっています。

オブジェクト数

このバケット内のオブジェクトの数。バケットでバージョン管理が有効になっている場合、この値には現在のオブジェクト以外のバージョンが含まれます。

オブジェクトが追加または削除されても、この値はすぐに更新されない場合があります。

使用スペース

バケット内のすべてのオブジェクトの論理サイズ。論理サイズには、複製されたコピーや消去コード化されたコピー、あるいはオブジェクトメタデータに必要な実際のスペースは含まれません。

この値の更新には最大 10 分かかる場合があります。

使用法

バケットの容量制限の使用率（設定されている場合）。

使用量の値は内部推定に基づいており、場合によっては超過する可能性があります。たとえば、StorageGRID は、テナントがオブジェクトのアップロードを開始すると容量制限（設定されている場合）をチェックし、テナントが容量制限を超えている場合はこのバケットへの新しい取り込みを拒否します。ただし、StorageGRID は、容量制限を超えたかどうかを判断する際に、現在のアップロードのサイズを考慮しません。オブジェクトが削除されると、容量制限の使用量が再計算されるまで、テナントはこのバケットに新しいオブジェクトをアップロードできなくなる場合があります。計算には10分以上かかる場合があります。

この値は、オブジェクトとそのメタデータを格納するために必要な物理サイズではなく、論理サイズを示します。

容量

設定されている場合、バケットの容量制限。

作成日

バケットが作成された日時。この列はデフォルトでは非表示になっています。

3. 特定のバケットの詳細を表示するには、テーブルからバケット名を選択します。

- a. Web ページの上部にある概要情報を表示して、リージョンやオブジェクト数などのバケットの詳細を確認します。
- b. 容量制限の使用状況バーを表示します。使用率が 100% または 100% に近い場合は、制限を増やすか、一部のオブジェクトを削除することを検討してください。
- c. 必要に応じて、「バケット内のオブジェクトの削除」と「バケットの削除」を選択します。



これらの各オプションを選択したときに表示される注意事項に十分注意してください。詳細については、以下を参照してください。

- ["バケット内のすべてのオブジェクトを削除する"](#)
- ["バケットを削除する"](#)(バケットは空である必要があります)

d. 必要に応じて、各タブでバケットの設定を表示または変更します。

- **S3 コンソール**: バケットのオブジェクトを表示します。詳細については、"[S3コンソールを使用する](#)"。
- **バケット オプション**: オプション設定を表示または変更します。S3 オブジェクトロックなど一部の設定は、バケットの作成後は変更できません。
 - "[バケットの一貫性を管理する](#)"
 - "[最終アクセス時間の更新](#)"
 - "[容量制限](#)"
 - "[オブジェクトのバージョン管理](#)"
 - "[S3 オブジェクトロック](#)"
 - "[デフォルトのバケット保持](#)"
 - "[クロスグリッドレプリケーションを管理する](#)" (入居者に許可されている場合)
- **プラットフォームサービス**: "[プラットフォームサービスの管理](#)" (入居者に許可されている場合)
- **バケット アクセス**: オプション設定を表示または変更します。特定のアクセス権限が必要です。
 - 設定"[クロスオリジンリソース共有 \(CORS\)](#)" そのため、バケットとバケット内のオブジェクトは他のドメインの Web アプリケーションからアクセスできるようになります。
 - "[ユーザーアクセスを制御する](#)" S3 バケットとそのバケット内のオブジェクト。

バケットにILMポリシータグを適用する

オブジェクト ストレージの要件に基づいて、バケットに適用する ILM ポリシー タグを選択します。

ILM ポリシーは、オブジェクト データが保存される場所と、一定期間後に削除されるかどうかを制御します。グリッド管理者は ILM ポリシーを作成し、複数のアクティブ ポリシーを使用する場合は ILM ポリシー タグに割り当てます。



バケットのポリシータグを頻繁に再割り当てすることは避けてください。そうしないと、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは、"[ルートアクセス、すべてのバケットの管理、またはすべてのバケットの表示権限](#)"。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ **(S3)** > *バケット*を選択します。

バケット ページが表示されます。必要に応じて、任意の列で情報を並べ替えたり、リスト内を前後に移動したりできます。

2. ILM ポリシー タグを割り当てるバケットの名前を選択します。

すでにタグが割り当てられているバケットの ILM ポリシー タグの割り当てを変更することもできます。



表示されるオブジェクト数と使用済みスペースの値は推定値です。これらの見積りは、取り込みのタイミング、ネットワーク接続、およびノードの状態によって影響を受けます。バケットでバージョン管理が有効になっている場合、削除されたオブジェクトのバージョンもオブジェクト数に含まれます。

3. バケット オプション タブで、ILM ポリシー タグ アコーディオンを展開します。このアコーディオンは、グリッド管理者がカスタム ポリシー タグの使用を有効にしている場合にのみ表示されます。
4. 各ポリシータグの説明を読んで、バケットに適用するタグを決定します。



バケットの ILM ポリシー タグを変更すると、バケット内のすべてのオブジェクトの ILM 再評価がトリガーされます。新しいポリシーでオブジェクトを一定期間保持する場合、古いオブジェクトは削除されます。

5. バケットに割り当てるタグのラジオボタンを選択します。
6. *変更を保存*を選択します。キーを持つバケットに新しいS3バケットタグが設定されます `NTAP-SG-ILM-BUCKET-TAG` ILM ポリシー タグ名の値。



S3 アプリケーションが誤って新しいバケット タグを上書きまたは削除しないようにします。新しいタグセットをバケットに適用するときにこのタグを省略すると、バケット内のオブジェクトはデフォルトの ILM ポリシーに基づいて評価される状態に戻ります。



ILM ポリシー タグが検証される Tenant Manager または Tenant Manager API のみを使用して、ILM ポリシー タグを設定および変更します。変更しないでください `NTAP-SG-ILM-BUCKET-TAG` S3 PutBucketTagging API または S3 DeleteBucketTagging API を使用した ILM ポリシータグ。



バケットに割り当てられたポリシー タグを変更すると、新しい ILM ポリシーを使用してオブジェクトが再評価されている間、一時的にパフォーマンスに影響が出ます。

バケットポリシーを管理する

S3 バケットとそのバケット内のオブジェクトに対するユーザー アクセスを制御できます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、["サポートされているウェブブラウザ"](#)。
- あなたは、["ルートアクセス権限"](#)。「すべてのバケットを表示」および「すべてのバケットを管理」権限では、表示のみが許可されます。
- 必要な数のストレージ ノードとサイトが利用可能であることを確認しました。どのサイトでも 2 つ以上のストレージ ノードが利用できない場合、またはサイトが利用できない場合は、これらの設定を変更できない可能性があります。

手順

1. *バケット*を選択し、管理するバケットを選択します。

2. バケットの詳細ページで、バケット アクセス > バケット ポリシー を選択します。

3. 次のいずれかを実行します。

- *ポリシーを有効にする*チェックボックスを選択してバケットポリシーを入力します。次に、有効な JSON 形式の文字列を入力します。

各バケット ポリシーのサイズ制限は 20,480 バイトです。

- 文字列を編集して既存のポリシーを変更します。
- *ポリシーを有効にする*の選択を解除してポリシーを無効にします。

言語構文や例を含むバケットポリシーの詳細については、以下を参照してください。"[バケットポリシーの例](#)"。

バケットの一貫性を管理する

一貫性値を使用すると、バケット設定の変更の可用性を指定できるほか、バケット内のオブジェクトの可用性と、異なるストレージ ノードおよびサイト間でのオブジェクトの一貫性のバランスをとることもできます。クライアント アプリケーションが運用上のニーズを満たすことができるように、一貫性の値を既定値とは異なる値に変更できます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは、"[すべてのバケットまたはルートアクセス権限を管理する](#)"。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。

バケットの一貫性ガイドライン

バケットの一貫性は、その S3 バケット内のオブジェクトに影響を与えるクライアント アプリケーションの一貫性を決定するために使用されます。一般に、バケットには 新規書き込み後の読み取り の一貫性を使用する必要があります。

バケットの一貫性を変更する

Read-after-new-write の整合性がクライアントアプリケーションの要件を満たしていない場合は、バケットの整合性を設定するか、`Consistency-Control`ヘッダ。その`Consistency-Control`ヘッダーはバケットの一貫性を上書きします。



バケットの一貫性を変更すると、変更後に取り込まれたオブジェクトのみが、修正された設定を満たすことが保証されます。

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (**S3**) > *バケット*を選択します。
2. テーブルからバケット名を選択します。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. バケット オプション タブから、** アコーディオンを選択します。

4. このバケット内のオブジェクトに対して実行される操作の一貫性を選択します。

- **すべて:** 最高レベルの一貫性を提供します。すべてのノードがデータを直ちに受信します。そうでない場合、要求は失敗します。
- **強力なグローバル:** すべてのサイトにわたるすべてのクライアント要求の書き込み後の読み取り一貫性を保証します。
- **強力なサイト:** サイト内のすべてのクライアント要求に対して、書き込み後の読み取りの一貫性を保証します。
- **新規書き込み後の読み取り (デフォルト):** 新しいオブジェクトに対して書き込み後の読み取りの一貫性を提供し、オブジェクトの更新に対して最終的な一貫性を提供します。高可用性とデータ保護の保証を提供します。ほとんどの場合に推奨されます。
- **利用可能:** 新しいオブジェクトとオブジェクトの更新の両方に対して最終的な一貫性を提供します。S3 バケットの場合は、必要な場合にのみ使用してください (たとえば、めったに読み取られないログ値を含むバケットの場合や、存在しないキーに対する HEAD または GET 操作の場合など)。S3 FabricPoolバケットではサポートされていません。

5. ***変更を保存***を選択します。

バケット設定を変更すると何が起こるか

バケットには、バケットとバケット内のオブジェクトの動作に影響する複数の設定があります。

次のバケット設定では、デフォルトで強力な一貫性が使用されます。どのサイトでも2つ以上のストレージノードが利用できない場合、またはサイトが利用できない場合は、これらの設定に対する変更が利用できない可能性があります。

- ["バックグラウンドで空のバケットを削除"](#)
- ["最終アクセス時間"](#)
- ["バケットのライフサイクル"](#)
- ["バケットポリシー"](#)
- ["バケットのタグ付け"](#)
- ["バケットのバージョン管理"](#)
- ["S3 オブジェクトロック"](#)
- ["バケット暗号化"](#)



バケットのバージョン管理、S3 オブジェクト ロック、およびバケットの暗号化の一貫性値は、強力に一貫性のない値に設定することはできません。

次のバケット設定では強力な一貫性が使用されず、変更の可用性が高くなります。これらの設定の変更が反映されるまでには、しばらく時間がかかる場合があります。

- ["プラットフォーム サービスの構成: 通知、レプリケーション、または検索の統合"](#)
- ["CORS設定"](#)
- ["バケットの一貫性を変更する"](#)



バケット設定を変更する際に使用されるデフォルトの一貫性がクライアントアプリケーションの要件を満たしていない場合は、`Consistency-Control`ヘッダー"[S3 REST API](#)"または、`reducedConsistency`または`force`オプション"[テナント管理API](#)"。

最終アクセス時間の更新を有効または無効にする

グリッド管理者は、StorageGRIDシステムの情報ライフサイクル管理 (ILM) ルールを作成するときに、オブジェクトの最終アクセス時刻を使用して、そのオブジェクトを別のストレージの場所に移動するかどうかを判断するようにオプションで指定できます。S3 テナントを使用している場合は、S3 バケット内のオブジェクトの最終アクセス時刻の更新を有効にすることで、このようなルールを利用できます。

これらの手順は、最終アクセス時刻 オプションを詳細フィルターまたは参照時刻として使用する ILM ルールが少なくとも 1 つ含まれるStorageGRIDシステムにのみ適用されます。StorageGRIDシステムにそのようなルールが含まれていない場合は、これらの手順を無視できます。見る"[ILMルールで最終アクセス時刻を使用する](#)"詳細については。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは、"[すべてのバケットまたはルートアクセス権限を管理する](#)"。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。

タスク概要

最終アクセス時間 は、ILM ルールの 参照時間 配置指示に使用できるオプションの 1 つです。ルールの参照時間を最終アクセス時間に設定すると、グリッド管理者は、オブジェクトが最後に取得 (読み取りまたは表示) された時間に基づいて、オブジェクトが特定のストレージの場所に配置されるように指定できます。

たとえば、最近表示したオブジェクトがより高速なストレージに残るようにするために、グリッド管理者は以下を指定する ILM ルールを作成できます。

- 過去 1 か月間に取得されたオブジェクトは、ローカル ストレージ ノードに残ります。
- 過去 1 か月間に回収されていないオブジェクトは、オフサイトの場所に移動する必要があります。

デフォルトでは、最終アクセス時刻の更新は無効になっています。StorageGRIDシステムに 最終アクセス時刻 オプションを使用する ILM ルールが含まれており、このオプションをこのバケット内のオブジェクトに適用する場合は、そのルールで指定された S3 バケットの最終アクセス時刻の更新を有効にする必要があります。



オブジェクトが取得されたときに最終アクセス時間を更新すると、特に小さなオブジェクトの場合、StorageGRID のパフォーマンスが低下する可能性があります。

StorageGRID はオブジェクトが取得されるたびに次の追加手順を実行する必要があるため、最終アクセス時刻の更新によってパフォーマンスに影響が生じます。

- 新しいタイムスタンプでオブジェクトを更新する
- オブジェクトをILMキューに追加して、現在のILMルールとポリシーに照らして再評価できるようにします。

この表は、最終アクセス時間が無効または有効になっている場合にバケット内のすべてのオブジェクトに適用される動作をまとめたものです。

リクエストの種類	最終アクセス時刻が無効になっている場合の動作（デフォルト）		最終アクセス時刻が有効になっている場合の動作	
	最終アクセス時間は更新されましたか？	オブジェクトが ILM 評価キューに追加されましたか？	最終アクセス時間は更新されましたか？	オブジェクトが ILM 評価キューに追加されましたか？
オブジェクト、そのアクセス制御リスト、またはそのメタデータの取得要求	いいえ	いいえ	はい	はい
オブジェクトのメタデータの更新リクエスト	はい	はい	はい	はい
オブジェクトまたはオブジェクトのバージョンの一覧表示のリクエスト	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
あるバケットから別のバケットにオブジェクトをコピーするリクエスト	<ul style="list-style-type: none"> • いいえ、ソースコピーの場合 • はい、宛先コピー用 	<ul style="list-style-type: none"> • いいえ、ソースコピーの場合 • はい、宛先コピー用 	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ソースコピーの場合 • はい、宛先コピー用 	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ソースコピーの場合 • はい、宛先コピー用
マルチパートアップロードの完了リクエスト	はい、組み立てられたオブジェクトの場合	はい、組み立てられたオブジェクトの場合	はい、組み立てられたオブジェクトの場合	はい、組み立てられたオブジェクトの場合

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (S3) > *バケット*を選択します。
2. テーブルからバケット名を選択します。

バケットの詳細ページが表示されます。
3. バケット オプション タブから、最終アクセス時間の更新 アコーディオンを選択します。
4. 最終アクセス時間の更新を有効または無効にします。
5. *変更を保存*を選択します。

バケットのオブジェクトのバージョン管理を変更する

S3 テナントを使用している場合は、S3 バケットのバージョン管理状態を変更できま

す。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは、"[すべてのバケットまたはルートアクセス権限を管理する](#)"。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。
- 必要な数のストレージ ノードとサイトが利用可能であることを確認しました。どのサイトでも 2 つ以上のストレージ ノードが利用できない場合、またはサイトが利用できない場合は、これらの設定を変更できない可能性があります。

タスク概要

バケットのオブジェクトのバージョン管理を有効化または一時停止できます。バケットのバージョン管理を有効にすると、バージョン管理されていない状態に戻すことはできません。ただし、バケットのバージョン管理を一時停止することはできます。

- 無効: バージョン管理が有効になったことはありません
- 有効: バージョン管理が有効です
- 一時停止: バージョン管理は以前は有効でしたが、一時停止されています

詳細については、次を参照してください。

- "[オブジェクトのバージョン管理](#)"
- "[S3 バージョン管理オブジェクトの ILM ルールとポリシー \(例 4\)](#)"
- "[オブジェクトの削除方法](#)"

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ **(S3)** > *バケット*を選択します。
2. テーブルからバケット名を選択します。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. バケット オプション タブから、オブジェクトのバージョン管理 アコーディオンを選択します。
4. このバケット内のオブジェクトのバージョン管理状態を選択します。

クロスグリッド レプリケーションに使用されるバケットでは、オブジェクトのバージョン管理を有効にしておく必要があります。S3 オブジェクト ロックまたはレガシー コンプライアンスが有効になっている場合、オブジェクトのバージョン管理 オプションは無効になります。

オプション	説明
バージョン管理を有効にする	<p>このバケット内の各オブジェクトのすべてのバージョンを保存する場合は、オブジェクトのバージョン管理を有効にします。必要に応じて、オブジェクトの以前のバージョンを取得できます。</p> <p>バケット内にすでに存在するオブジェクトは、ユーザーによって変更されるとバージョン管理されます。</p>

オプション	説明
バージョン管理を一時停止	新しいオブジェクトバージョンを作成する必要がなくなった場合は、オブジェクトのバージョン管理を一時停止します。既存のオブジェクトバージョンを引き続き取得できます。

5. *変更を保存*を選択します。

S3 オブジェクトロックを使用してオブジェクトを保持する

バケットとオブジェクトが保持に関する規制要件に準拠する必要がある場合は、S3 オブジェクトロックを使用できます。



グリッド管理者は、S3 オブジェクト ロックの特定の機能を使用するための権限を付与する必要があります。

S3 オブジェクトロックとは何ですか？

StorageGRID S3 オブジェクト ロック機能は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) の S3 オブジェクト ロックと同等のオブジェクト保護ソリューションです。

StorageGRIDシステムでグローバル S3 オブジェクト ロック設定が有効になっている場合、S3 テナント アカウントは、S3 オブジェクト ロックが有効になっているかどうかに関係なくバケットを作成できます。バケットで S3 オブジェクトロックが有効になっている場合は、バケットのバージョン管理が必要となり、自動的に有効になります。

S3 オブジェクト ロックのないバケット には、保持設定が指定されていないオブジェクトのみを含めることができます。取り込まれたオブジェクトには保持設定はありません。

S3 オブジェクト ロックが有効なバケット には、S3 クライアント アプリケーションによって指定された保持設定のあるオブジェクトと、保持設定のないオブジェクトを含めることができます。取り込まれたオブジェクトの中には保持設定を持つものがあります。

S3 オブジェクト ロックとデフォルトの保持期間が設定されたバケット には、保持期間設定が指定されたアップロード済みオブジェクトと、保持期間設定のない新しいオブジェクトを含めることができます。保持設定がオブジェクト レベルで構成されていないため、新しいオブジェクトではデフォルト設定が使用されます。

実際には、デフォルトの保持期間が設定されている場合、新しく取り込まれたすべてのオブジェクトに保持設定が行われます。オブジェクト保持設定のない既存のオブジェクトは影響を受けません。

保持モード

StorageGRID S3 オブジェクト ロック機能は、オブジェクトに異なるレベルの保護を適用するための 2 つの保持モードをサポートしています。これらのモードは、Amazon S3 保持モードと同等です。

- コンプライアンスモードの場合:
 - オブジェクトは、保持期限に達するまで削除できません。
 - オブジェクトの保持期限を増やすことはできますが、減らすことはできません。

- オブジェクトの保持期限は、その日付に達するまで削除できません。
- ガバナンス モードの場合:
 - 特別な権限を持つユーザーは、リクエストでバイパス ヘッダーを使用して、特定の保持設定を変更できます。
 - これらのユーザーは、オブジェクト バージョンを、その保持期限に達する前に削除できます。
 - これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。

オブジェクトバージョンの保持設定

S3 オブジェクト ロックを有効にしてバケットを作成した場合、ユーザーは S3 クライアント アプリケーションを使用して、バケットに追加されるオブジェクトごとに次の保持設定をオプションで指定できます。

- 保持モード: コンプライアンスまたはガバナンスのいずれか。
- 保持期限: オブジェクト バージョンの保持期限が将来の日付である場合、オブジェクトを取得することはできませんが、削除することはできません。
- 法的保留: オブジェクト バージョンに法的保留を適用すると、そのオブジェクトは直ちにロックされます。たとえば、調査や法的紛争に関連するオブジェクトに対して法的保留を設定する必要がある場合があります。法的保留には有効期限はありませんが、明示的に削除されるまで有効のままになります。法的保留は、保持期限とは無関係です。



オブジェクトが法的保留中の場合、保持モードに関係なく、誰もそのオブジェクトを削除することはできません。

オブジェクト設定の詳細については、"[S3 REST API を使用して S3 オブジェクトロックを設定する](#)"。

バケットのデフォルトの保持設定

S3 オブジェクトロックを有効にしてバケットを作成すると、ユーザーはオプションでバケットの次のデフォルト設定を指定できます。

- デフォルトの保持モード: コンプライアンスまたはガバナンスのいずれか。
- デフォルトの保持期間: このバケットに追加された新しいオブジェクト バージョンを、追加された日から保持する期間。

デフォルトのバケット設定は、独自の保持設定を持たない新しいオブジェクトにのみ適用されます。これらのデフォルト設定を追加または変更しても、既存のバケット オブジェクトは影響を受けません。

見る"[S3バケットを作成する](#)"そして"[S3 オブジェクトロックのデフォルト保持を更新](#)"。

S3 オブジェクトロックタスク

グリッド管理者とテナント ユーザー向けの次のリストには、S3 オブジェクト ロック機能を使用するための高レベルのタスクが含まれています。

グリッド管理者

- StorageGRIDシステム全体に対してグローバル S3 オブジェクト ロック設定を有効にします。
- 情報ライフサイクル管理 (ILM) ポリシーが準拠していることを確認する。つまり、"[S3 オブジェクト](#)

ロックが有効になっているバケットの要件

- 必要に応じて、テナントがコンプライアンスを保持モードとして使用できるようにします。それ以外の場合は、ガバナンス モードのみが許可されます。
- 必要に応じて、テナントの最大保持期間を設定します。

テナントユーザー

- S3 オブジェクトロックを使用したバケットとオブジェクトに関する考慮事項を確認します。
- 必要に応じて、グリッド管理者に連絡して、グローバル S3 オブジェクト ロック設定を有効にし、権限を設定します。
- S3 オブジェクトロックを有効にしてバケットを作成します。
- 必要に応じて、バケットのデフォルトの保持設定を構成します。
 - デフォルトの保持モード: グリッド管理者が許可している場合、ガバナンスまたはコンプライアンス。
 - デフォルトの保持期間: グリッド管理者によって設定された最大保持期間以下である必要があります。
- S3 クライアント アプリケーションを使用してオブジェクトを追加し、オプションでオブジェクト固有の保持期間を設定します。
 - 保持モード: グリッド管理者によって許可されている場合、ガバナンスまたはコンプライアンス。
 - 保持期限: グリッド管理者が設定した最大保持期間で許可されている値以下である必要があります。

S3 オブジェクトロックが有効になっているバケットの要件

- StorageGRIDシステムでグローバル S3 オブジェクト ロック設定が有効になっている場合は、テナント マネージャ、テナント管理 API、または S3 REST API を使用して、S3 オブジェクト ロックが有効になっているバケットを作成できます。
- S3 オブジェクトロックを使用する予定の場合は、バケットを作成するときに S3 オブジェクトロックを有効にする必要があります。既存のバケットに対して S3 オブジェクトロックを有効にすることはできません。
- バケットに対して S3 オブジェクト ロックが有効になっている場合、StorageGRID はそのバケットのバージョン管理を自動的に有効にします。S3 オブジェクトロックを無効にしたり、バケットのバージョン管理を一時停止したりすることはできません。
- オプションで、テナント マネージャー、テナント管理 API、または S3 REST API を使用して、各バケットのデフォルトの保持モードと保持期間を指定できます。バケットのデフォルトの保持設定は、バケットに追加された、独自の保持設定を持たない新しいオブジェクトにのみ適用されます。アップロード時に各オブジェクト バージョンの保持モードと保持期限を指定することにより、これらのデフォルト設定を上書きできます。
- バケットのライフサイクル設定は、S3 オブジェクト ロックが有効になっているバケットでサポートされます。
- S3 オブジェクト ロックが有効になっているバケットでは、CloudMirror レプリケーションはサポートされません。

S3 オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトの要件

- オブジェクト バージョンを保護するには、バケットのデフォルトの保持設定を指定するか、オブジェクトバージョンごとに保持設定を指定できます。オブジェクト レベルの保持設定は、S3 クライアント アプリケーションまたは S3 REST API を使用して指定できます。
- 保持設定は個々のオブジェクト バージョンに適用されます。オブジェクト バージョンには、保持期限設定と法的保留設定の両方が含まれる場合もあれば、どちらか一方だけが含まれる場合もあり、どちらも含まれない場合もあります。オブジェクトに対して保持期限または法的保留設定を指定すると、リクエストで指定されたバージョンのみが保護されます。オブジェクトの以前のバージョンはロックされたまま、オブジェクトの新しいバージョンを作成できます。

S3 オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトのライフサイクル

S3 オブジェクトロックが有効になっているバケットに保存された各オブジェクトは、以下の段階を経ます。

1. オブジェクトの取り込み

S3 オブジェクトロックが有効になっているバケットにオブジェクトバージョンが追加されると、保持設定が次のように適用されます。

- オブジェクトに保持設定が指定されている場合は、オブジェクト レベルの設定が適用されます。デフォルトのバケット設定はすべて無視されます。
- オブジェクトに保持設定が指定されていない場合は、デフォルトのバケット設定（存在する場合）が適用されます。
- オブジェクトまたはバケットに保持設定が指定されていない場合、オブジェクトは S3 オブジェクトロックによって保護されません。

保持設定が適用されると、オブジェクトと S3 ユーザー定義メタデータの両方が保護されます。

2. オブジェクトの保持と削除

保護された各オブジェクトの複数のコピーは、指定された保持期間にわたってStorageGRIDによって保存されます。オブジェクト コピーの正確な数とタイプ、および保存場所は、アクティブな ILM ポリシーの準拠ルールによって決まります。保護されたオブジェクトを、その保持期限に達する前に削除できるかどうかは、その保持モードによって異なります。

- オブジェクトが法的保留中の場合、保持モードに関係なく、誰もそのオブジェクトを削除することはできません。

従来のコンプライアンス バケットを引き続き管理できますか？

S3 オブジェクト ロック機能は、以前のStorageGRIDバージョンで利用可能だったコンプライアンス機能に代わるものです。以前のバージョンのStorageGRIDを使用して準拠バケットを作成した場合、これらのバケットの設定を引き続き管理できますが、新しい準拠バケットを作成することはできなくなります。手順については、https://kb.netapp.com/Advice_and_Troubleshooting/Hybrid_Cloud_Infrastructure/StorageGRID/How_to_manage_legacy_Compliant_buckets_in_StorageGRID_11.5["NetAppナレッジベース: StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"]。

S3 オブジェクトロックのデフォルト保持を更新

バケットの作成時に S3 オブジェクトロックを有効にした場合は、バケットを編集してデフォルトの保持設定を変更できます。デフォルトの保持を有効 (または無効) にしたり、デフォルトの保持モードと保持期間を設定したりできます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、["サポートされているウェブブラウザ"](#)。
- あなたは、["すべてのバケットまたはルートアクセス権限を管理する"](#)。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。
- S3 オブジェクト ロックはStorageGRIDシステムに対してグローバルに有効になっており、バケットの作成時に S3 オブジェクト ロックが有効になっています。見る["S3 オブジェクトロックを使用してオブジェクトを保持する"](#)。

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (S3) > *バケット*を選択します。
2. テーブルからバケット名を選択します。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. バケット オプション タブから、**S3** オブジェクト ロック アコーディオンを選択します。
4. 必要に応じて、このバケットの*デフォルトの保持期間*を有効または無効にします。

この設定の変更は、バケット内にすでに存在するオブジェクトや、独自の保持期間を持つ可能性のあるオブジェクトには適用されません。

5. *デフォルトの保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルトの保持モード*を指定します。

デフォルトの保持モード	説明
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none">• ユーザーは `s3:BypassGovernanceRetention` 許可は `x-amz-bypass-governance-retention: true` 保持設定をバイパスするためのリクエスト ヘッダー。• これらのユーザーは、オブジェクト バージョンを、その保持期限に達する前に削除できます。• これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none">• オブジェクトは、保持期限に達するまで削除できません。• オブジェクトの保持期限を増やすことはできますが、減らすことはできません。• オブジェクトの保持期限は、その日付に達するまで削除できません。 <p>注意: グリッド管理者がコンプライアンス モードの使用を許可する必要があります。</p>

6. *デフォルトの保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルトの保持期間*を指定します。

デフォルトの保持期間は、このバケットに追加された新しいオブジェクトが取り込まれた時点から保持される期間を示します。グリッド管理者によって設定されたテナントの最大保持期間以下の値を指定します。

グリッド管理者がテナントを作成するときに、1日から100年までの値に設定できる最大保持期間が設定されます。_デフォルト_の保持期間を設定する場合、最大保持期間に設定された値を超えることはできません。必要に応じて、グリッド管理者に最大保存期間の増減を依頼してください。

7. *変更を保存*を選択します。

クロスオリジンリソース共有 (CORS) を構成する

S3 バケットとそのバケット内のオブジェクトを他のドメインの Web アプリケーションからアクセスできるようにする場合は、S3 バケットに対してクロスオリジンリソース共有 (CORS) を設定できます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- GET CORS設定リクエストの場合、あなたは以下の権限を持つユーザーグループに属しています。"[すべてのバケットの管理またはすべてのバケットの表示権限](#)"。これらの権限は、グループまたはバケットポリシーの権限設定をオーバーライドします。
- PUT CORS設定リクエストの場合、あなたは以下の権限を持つユーザーグループに属しています。"[すべてのバケットの権限を管理する](#)"。この権限は、グループまたはバケットポリシーの権限設定をオーバーライドします。
- その"[ルートアクセス権限](#)"すべての CORS 構成リクエストへのアクセスを提供します。

タスク概要

クロスオリジンリソース共有 (CORS) は、あるドメイン内のクライアント Web アプリケーションが別のドメイン内のリソースにアクセスできるようにするセキュリティメカニズムです。たとえば、S3バケットの名前が `Images`グラフィック` を保存します。CORSを設定することで、``Images`バケット` 内の画像をウェブサイトに表示できるようにすることができます ``http://www.example.com`。

バケットのCORSを有効にする

手順

1. テキストエディターを使用して必要な XML を作成します。この例では、S3 バケットの CORS を有効にするために使用される XML を示しています。具体的な制限事項は次のとおりです。
 - 任意のドメインがバケットにGETリクエストを送信できるようにします
 - のみ許可します ``http://www.example.com`GET、POST、DELETE` リクエストを送信するドメイン
 - すべてのリクエストヘッダーが許可されます

```
<CORSConfiguration
  xmlns="http://s3.amazonaws.com/doc/2020-10-22/">
  <CORSRule>
    <AllowedOrigin>*</AllowedOrigin>
    <AllowedMethod>GET</AllowedMethod>
    <AllowedHeader>*</AllowedHeader>
  </CORSRule>
  <CORSRule>
    <AllowedOrigin>http://www.example.com</AllowedOrigin>
    <AllowedMethod>GET</AllowedMethod>
    <AllowedMethod>POST</AllowedMethod>
    <AllowedMethod>DELETE</AllowedMethod>
    <AllowedHeader>*</AllowedHeader>
  </CORSRule>
</CORSConfiguration>
```

CORS構成XMLの詳細については、以下を参照してください。 ["Amazon Web Services \(AWS\) ドキュメント: Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド"](#)。

2. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (S3) > *バケット*を選択します。
3. テーブルからバケット名を選択します。

バケットの詳細ページが表示されます。

4. バケット アクセス タブから、クロスオリジン リソース共有 (CORS) アコーディオンを選択します。
5. **CORS** を有効にする チェックボックスを選択します。
6. CORS 構成 XML をテキスト ボックスに貼り付けます。
7. *変更を保存*を選択します。

CORS設定を変更する

手順

1. テキスト ボックス内の CORS 構成 XML を更新するか、[クリア] を選択して最初からやり直します。
2. *変更を保存*を選択します。

CORS設定を無効にする

手順

1. **CORS** を有効にする チェックボックスをオフにします。
2. *変更を保存*を選択します。

バケット内のオブジェクトを削除する

テナント マネージャを使用して、1 つ以上のバケット内のオブジェクトを削除できます。

考慮事項と要件

これらの手順を実行する前に、次の点に注意してください。

- バケット内のオブジェクトを削除すると、StorageGRID は、選択した各バケット内のすべてのオブジェクトとすべてのオブジェクト バージョンを、StorageGRIDシステム内のすべてのノードとサイトから完全に削除します。StorageGRID は関連するオブジェクト メタデータも削除します。この情報を回復することはできません。
- バケット内のすべてのオブジェクトを削除するには、オブジェクトの数、オブジェクトのコピー数、同時操作数に応じて、数分、数日、または数週間かかる場合があります。
- バケツに"[S3 オブジェクトロックが有効](#)"、オブジェクトの削除: 読み取り専用 状態が 年間 続く可能性があります。



S3 オブジェクト ロックを使用するバケットは、すべてのオブジェクトの保持期限に達し、法的保留が解除されるまで、オブジェクトの削除: 読み取り専用 状態のままになります。

- オブジェクトの削除中、バケットの状態は オブジェクトの削除: 読み取り専用 になります。この状態では、バケットに新しいオブジェクトを追加することはできません。
- すべてのオブジェクトが削除されると、バケットは読み取り専用状態のままになります。次のいずれかを実行できます。
 - バケットを書き込みモードに戻し、新しいオブジェクトに再利用します。
 - バケットを削除する
 - バケットを読み取り専用モードにして、将来の使用に備えて名前を予約します。
- バケットでオブジェクトのバージョン管理が有効になっている場合、StorageGRID 11.8 以降で作成された削除マーカーは、バケット内のオブジェクトの削除操作を使用して削除できます。
- バケットでオブジェクトのバージョン管理が有効になっている場合、オブジェクトの削除操作では、StorageGRID 11.7 以前で作成された削除マーカーは削除されません。バケット内のオブジェクトの削除に関する情報は、"[S3 バージョン管理オブジェクトの削除方法](#)"。
- 使用する場合"[クロスグリッドレプリケーション](#)"次の点に注意してください。
 - このオプションを使用すると、他のグリッドのバケットからオブジェクトは削除されません。
 - ソース バケットに対してこのオプションを選択した場合、他のグリッドの宛先バケットにオブジェクトを追加すると、クロス グリッド レプリケーションの失敗 アラートがトリガーされます。他のグリッドのバケットに誰もオブジェクトを追加しないことを保証できない場合は、"[クロスグリッドレプリケーションを無効にする](#)"すべてのバケット オブジェクトを削除する前に、そのバケットに対して実行します。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは、"[ルートアクセス権限](#)"。この権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (S3) > *バケット*を選択します。

「バケット」ページが表示され、既存の S3 バケットがすべて表示されます。

2. アクション メニューまたは特定のバケットの詳細ページを使用します。

[操作]メニュー

- a. オブジェクトを削除する各バケットのチェックボックスを選択します。
- b. アクション > *バケット内のオブジェクトの削除*を選択します。

詳細ページ

- a. バケット名を選択すると、その詳細が表示されます。
- b. *バケット内のオブジェクトを削除*を選択します。

3. 確認ダイアログボックスが表示されたら、詳細を確認し、「はい」と入力して、「OK」を選択します。
4. 削除操作が開始されるまで待ちます。

数分後:

- バケットの詳細ページに黄色のステータス バナーが表示されます。進行状況バーは、削除されたオブジェクトの割合を示します。
- (読み取り専用) は、バケットの詳細ページでバケットの名前の後に表示されます。
- (オブジェクトの削除: 読み取り専用) が [バケット] ページのバケット名の横に表示されます。

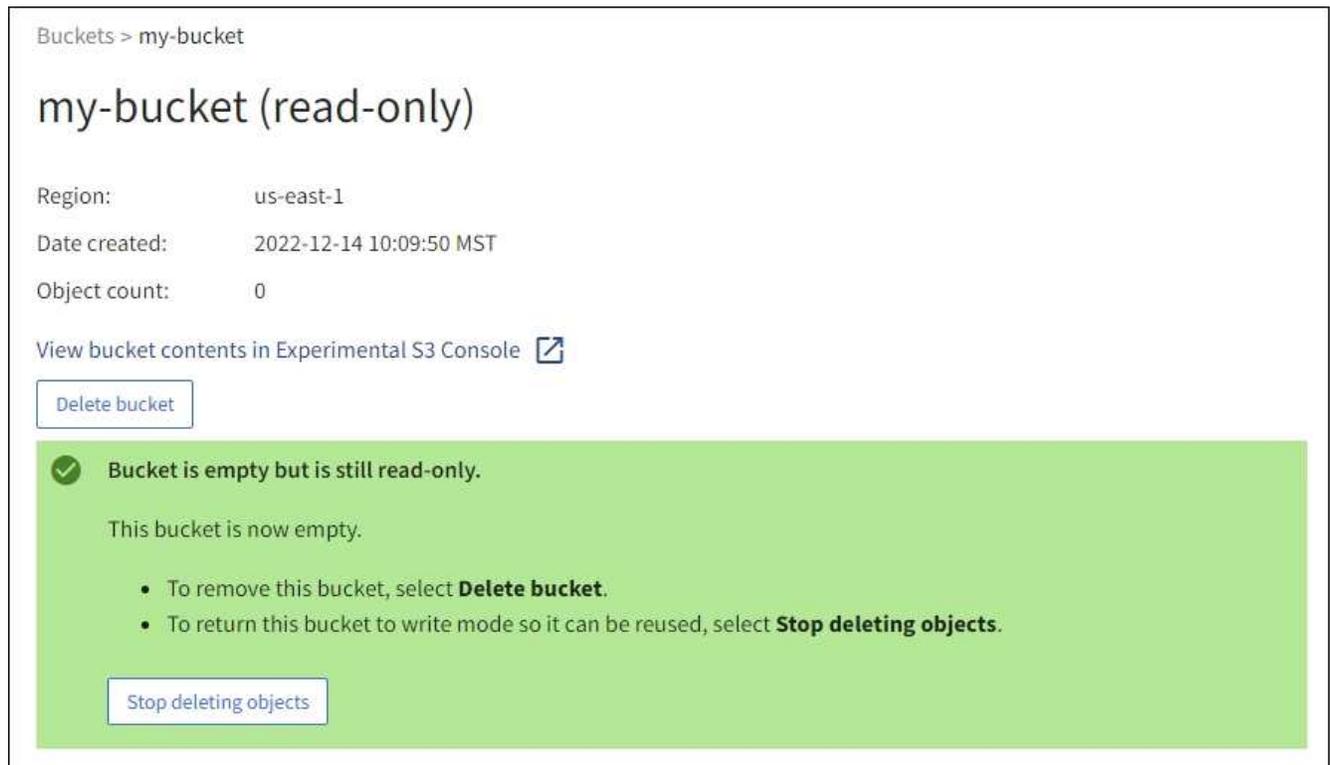
The screenshot shows the AWS S3 console interface for a bucket named 'my-bucket (read-only)'. The bucket is located in the 'us-east-1' region and was created on 2022-12-14 at 10:09:50 MST. It currently contains 3 objects. A green success message at the top right states 'Starting to delete objects from one bucket.' Below this, a yellow warning banner with a triangle icon reads: 'All bucket objects are being deleted. StorageGRID is deleting all copies of the objects in this bucket, which might take days or weeks. While objects are being deleted, the bucket is read only. To stop the operation, select **Stop deleting objects**. You cannot restore objects that have already been deleted.' A progress bar below the banner shows '0% (0 of 3 objects deleted)'. A 'Delete bucket' button is visible above the banner, and a 'Stop deleting objects' button is located at the bottom of the banner.

5. 操作の実行中に必要に応じて、[オブジェクトの削除を停止] を選択してプロセスを停止します。次に、オプションで「バケット内のオブジェクトを削除」を選択してプロセスを再開します。

*オブジェクトの削除を停止*を選択すると、バケットは書き込みモードに戻りますが、削除されたオブジェクトにアクセスしたり復元したりすることはできません。

6. 操作が完了するまでお待ちください。

バケットが空の場合、ステータス バナーは更新されますが、バケットは読み取り専用のままになります。



Buckets > my-bucket

my-bucket (read-only)

Region: us-east-1
Date created: 2022-12-14 10:09:50 MST
Object count: 0

[View bucket contents in Experimental S3 Console](#) 

[Delete bucket](#)

 **Bucket is empty but is still read-only.**

This bucket is now empty.

- To remove this bucket, select **Delete bucket**.
- To return this bucket to write mode so it can be reused, select **Stop deleting objects**.

[Stop deleting objects](#)

7. 次のいずれかを実行します。

- バケットを読み取り専用モードのままにするには、ページを終了します。たとえば、将来の使用に備えてバケット名を予約するために、空のバケットを読み取り専用モードで保持することができます。
- バケットを削除します。1つのバケットを削除するには、「バケットの削除」を選択するか、「バケット」ページに戻って「アクション > バケットの削除」を選択して複数のバケットを削除します。



すべてのオブジェクトを削除した後でもバージョン管理されたバケットを削除できない場合は、削除マーカが残る可能性があります。バケットを削除するには、残っている削除マーカをすべて削除する必要があります。

- バケットを書き込みモードに戻し、オプションで新しいオブジェクトに再利用します。1つのバケットに対して **オブジェクトの削除を停止** を選択するか、バケットページに戻って、複数のバケットに対して **アクション > オブジェクトの削除を停止** を選択できます。

S3バケットを削除する

テナント マネージャーを使用して、空の1つ以上の S3 バケットを削除できます。

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは、"[すべてのバケットまたはルートアクセス権限を管理する](#)"。これらの権限は、グループまたはバケット ポリシーの権限設定をオーバーライドします。
- 削除するバケットは空です。削除したいバケットが空でない場合は、"[バケットからオブジェクトを削除する](#)"。

タスク概要

これらの手順では、テナント マネージャーを使用して S3 バケットを削除する方法について説明します。S3 バケットを削除するには、"[テナント管理API](#)"または"[S3 REST API](#)"。

S3 バケットにオブジェクト、非現在のオブジェクトバージョン、または削除マーカが含まれている場合は、そのバケットを削除できません。S3バージョン管理オブジェクトの削除方法については、以下を参照してください。"[オブジェクトの削除方法](#)"。

手順

1. ダッシュボードから*バケットの表示*を選択するか、ストレージ (S3) > *バケット*を選択します。

「バケット」ページが表示され、既存の S3 バケットがすべて表示されます。

2. アクション メニューまたは特定のバケットの詳細ページを使用します。

[操作]メニュー

- a. 削除する各バケットのチェックボックスを選択します。
- b. アクション > *バケットの削除*を選択します。

詳細ページ

- a. バケット名を選択すると、その詳細が表示されます。
- b. *バケットの削除*を選択します。

3. 確認ダイアログボックスが表示されたら、「はい」を選択します。

StorageGRID は各バケットが空であることを確認し、各バケットを削除します。この処理には数分程度かかります。

バケットが空でない場合は、エラー メッセージが表示されます。絶対です"[バケット内のすべてのオブジェクトと削除マーカを削除します](#)"バケットを削除する前に。

S3コンソールを使用する

S3 コンソールを使用して、S3 バケット内のオブジェクトを表示および管理できます。

S3 コンソールでは次のことが可能です。

- オブジェクトのアップロード、ダウンロード、名前変更、コピー、移動、削除

- オブジェクトのバージョンを表示、元に戻す、ダウンロード、削除する
- 接頭辞でオブジェクトを検索する
- オブジェクトタグを管理する
- オブジェクトのメタデータを表示する
- フォルダの表示、作成、名前の変更、コピー、移動、削除

S3 コンソールは、最も一般的なケースにおいて、改善されたユーザー エクスペリエンスを提供します。あらゆる状況で CLI または API 操作を置き換えるようには設計されていません。



S3 コンソールを使用すると操作に時間がかかりすぎる場合 (数分または数時間など)、次のことを検討してください。

- 選択したオブジェクトの数を減らす
- 非グラフィカル (API または CLI) メソッドを使用してデータにアクセスする

開始する前に

- テナントマネージャーにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- オブジェクトを管理する場合は、ルート アクセス権限を持つユーザー グループに属している必要があります。または、「S3 コンソール タブの使用」権限と、「すべてのバケットの表示」権限または「すべてのバケットの管理」権限のいずれかを持つユーザー グループに属しています。見る"[テナント管理権限](#)"。
- ユーザーに対して S3 グループまたはバケット ポリシーが設定されています。見る"[バケットとグループのアクセスポリシーを使用する](#)"。
- ユーザーのアクセス キー ID とシークレット アクセス キーがわかっています。オプションとして、`.csv` この情報を含むファイル。参照"[アクセスキーの作成手順](#)"。

手順

1. ストレージ > バケット > バケット名 を選択します。
2. S3 コンソールタブを選択します。
3. アクセス キー ID とシークレット アクセス キーをフィールドに貼り付けます。それ以外の場合は、「アクセスキーをアップロード」を選択し、`.csv`ファイル。
4. *Sign in*を選択します。
5. バケット オブジェクトのテーブルが表示されます。必要に応じてオブジェクトを管理できます。

追加情報

- プレフィックスによる検索: プレフィックス検索機能は、現在のフォルダーを基準として特定の単語で始まるオブジェクトのみを検索します。検索には、他の場所にその単語が含まれるオブジェクトは含まれません。このルールはフォルダー内のオブジェクトにも適用されます。例えば、`folder1/folder2/somefile-` 範囲内のオブジェクトを返します `folder1/folder2/` フォルダと単語で始まる `somefile-`。
- ドラッグ アンド ドロップ: コンピュータのファイル マネージャーから S3 コンソールにファイルをドラッグ アンド ドロップできます。ただし、フォルダをアップロードすることはできません。
- フォルダーの操作: フォルダーを移動、コピー、または名前変更すると、フォルダー内のすべてのオブジェクトが一度に 1 つずつ更新されるため、時間がかかる場合があります。

- バケットのバージョン管理が無効になっている場合の永続的な削除: バージョン管理が無効になっているバケット内のオブジェクトを上書きまたは削除すると、その操作は永続的になります。見る"[バケットのオブジェクトのバージョン管理を変更する](#)"。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。